

# ねりまの文化財

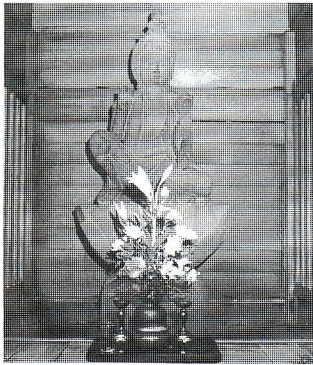
平成七年度

## 練馬区指定・登録文化財を決定!

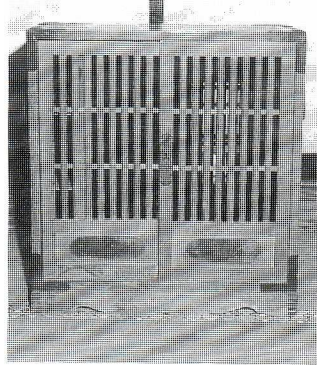
区では、かけがえない文化財を守り、後世に引き継いで行くために、毎年文化財の指定・登録を行っています。平成七年度は、つぎの九件を新たに指定・登録しましたので、ご紹介いたします。



力持ち惣兵衛の馬頭観音



北町聖観音座像



本寿院のみくじ道具

<指定文化財>

種別	名称	所在地・所有者	概要
文化財形	御府内井村方旧記	平和台1-32-3 内田岩松	天正18年(1590)の徳川家康江戸入府から文化13年(1816)までの江戸府内と下練馬村の出来事を記した年代記。
文化財形民俗	北町聖観音座像	北町3-28北町観音堂 北町二丁目町会	天和2年(1682)の制作で、像高107cm、総高270cm。区内に残る最大規模の観音像で台座には近隣の地名を刻む。

<登録文化財>

種別	名称	所在地・所有者	概要
有形文化財	三宝寺山門	石神井台1-15-6 宗教法人 三宝寺	切妻造り、瓦棒銅板葺き。江戸後期の建築物。
	井口栄一家文書	関町南4-5-32 井口栄一	江戸時代の関村の様相や近代の当地域の生活などが窺える文書類約70点。
	小美濃英男家文書	大泉学園町2-23-65 小美濃英男	江戸時代の小樽村の村政や近代の大泉村の行政、教育などが窺える。
	高稲荷遺跡出土の旧石器	練馬区郷土資料室 練馬区教育委員会	昭和61年~62年に発掘した高稲荷遺跡(桜台6-25)の出土の旧石器 466点。
史跡	田柄用水記念碑	田柄4-27-5 宗教法人 天祖神社	明治26年(1893)に建てられた玉川上水分水記念碑。
文化財民俗	本寿院のみくじ道具	早宮2-26-11 宗教法人 本寿院	みくじ箱、みくじ算筒、版木算筒からなるみくじ道具一式。
	力持ち惣兵衛の馬頭観音	大泉学園町 2-27-14地先 加藤ひで	最大長50cmで、若者の力だめに使われた力石が馬頭観音になった例は区内唯一。

練馬区教育委員会  
社会教育課  
(文化財係)  
☎3993-1111 内線 7141  
〒176 練馬区豊玉北6-12-1

本年二月、練馬区指定文化財「下練馬の富士塚」の現況測量調査報告書を作成しました。区内各図書館でご覧になれますので、興味のある方はご利用下さい。

新刊頒布中!  
文化財に関する左記の資料を新たに刊行しました。郷土資料室・区民情報ひろばで頒布しています。また図書館でもご覧になれます。  
◎練馬の寺院 改定版 二八〇円  
◎練馬区小竹二丁目遺跡 二二〇〇円  
◎練馬の民具目録1 衣・食・住編 一四〇〇円

## 角行燈と有明行燈

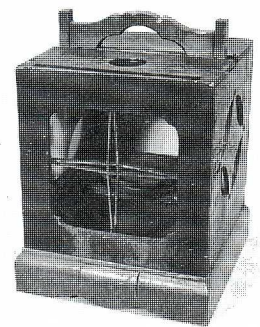
行燈は、油用燈火具の一種で、室町時代に使用された。そのころは、携行用であった。はじめは、立方体の枠に紙を貼り、底辺に油皿を置き、上部に取っ手をつけて手にさげて持ち運んだ。

江戸時代に入り、蠟燭の出現により手燭や提燈が携行用燈火具として普及した。そのため、行燈を持ち歩くことがすたれ、もっぱら屋内燈火具として使用されるようになった。

写真(左)の角行燈は、丸行燈とともに屋内燈火具の代表的なものである。油皿の周囲に長方形の枠が作られ、これに紙を貼った構造になっている。紙を貼った部分を火袋とよんだ。火袋は、風で燈火が吹き消されたり、揺れ動いたりするのを防ぐ役割を持っていた。また、紙を通しての明かりは、やわらかさとともに広い範囲に明るさをとどけるのにも役立った。



写真(右)の有明行燈は、寝室用の行燈として使用されていたもので、寝室の枕元に置いて終夜、ともし続けたものである。



方形の枠の正面が差し込み蓋式になっていて開閉ができる。この蓋を上げ下げして注油や点火していた。

角行燈が木枠だけの構造なのに比べ、有明行燈は、外側が箱型の鞘で覆われている。覆いには、三日月・満月・その他の模様の切り抜きが施されている。

これは、燈火の明るさを調節するためである。使用する場所が寝室であるので、高い照度を必要としなかったこともあるが、箱に切り抜かれたさまざまな模様から洩れる光を楽しむ粋なつくりになっている。

上部には取っ手がつけられ持ち運びもできるようなっている。家具調度品としての装飾性も重んじられ、箱全体を黒や朱で塗りあげた風雅なものもあった。

## 湧水・カタクリの里の文化財

大泉町周辺の文化財を訪ねて  
文化財保護推進員 瓜生 清

豊かな自然に恵まれ、白子川に沿って歴史と民俗が織りなしてきた大泉町も、この四〇年で、すっかり変貌してしまっただ。放射七号線が走り、関越自動車道西を横断し、近年また東京外かく環状道路が貫通した。しかし、同地域には今なお多くの文化財が残されており、ここで紹介させていただきたい。

但し、紙数の都合のため、大泉町南西部にも、閻魔像・十王像・檀拏像がある教学院、伊賀衆奉納の水盤・鳥居がある水川神社、谷(八)の釜の湧き水など見所が多いが、今回は大泉町北東部の文化財について白子川に沿って探訪したい。

土支田二丁目のバス停で下車し、坂を下ると清水山憩いの森の入口に出る。森には二〇万株ものカタクリが自生している。これほどたくさんカタクリが自生している例は都内では珍しく、カタクリ群落は区の登録天然記念物になっている。

カタクリの開花期は、ソメイヨシノとほぼ同じ三月下旬から四月下旬で、この時期にはたくさんのお見学者が訪れる。暗れた日には特に清楚なカタクリの花を斜面の狭い園路でしゃがんで見たり、万葉の堅香子の花の清水を思わせる湧き水の

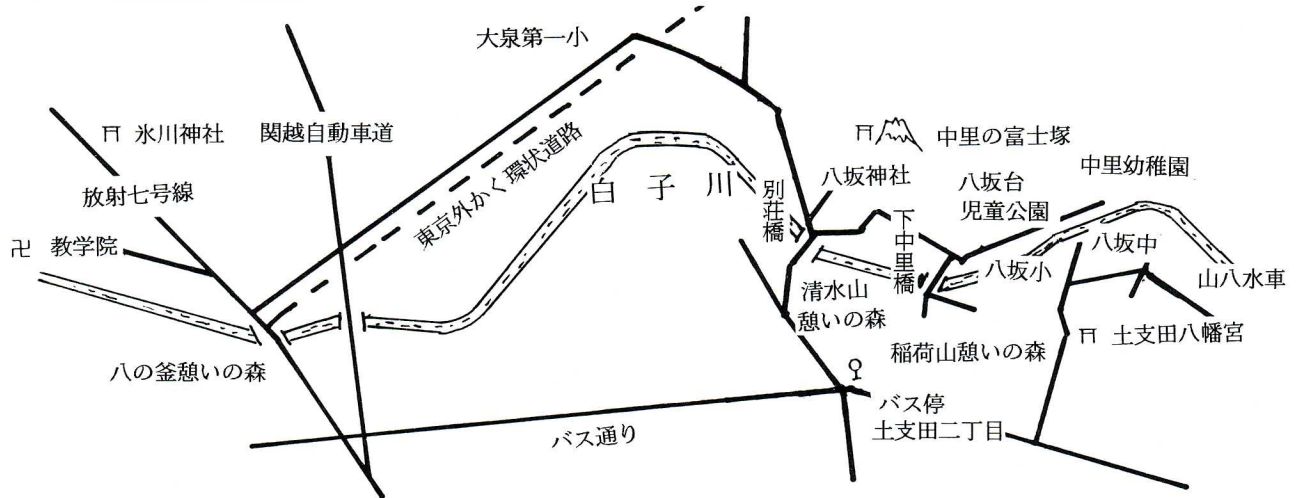
ほとりで撮影や写生をしたりする人で終日賑わっている。

ところが、残念なことには、人波の大半がカタクリの花を見終えたと帰途を急ぐのである。清水山のすぐ下を流れる白子川に沿って、少しでも歩けば思いもかけない素晴らしい景観や文化財に親しめるというのに!

清水山憩いの森から白子川の左岸を二〇メートルほど行くと下中里橋に出る。ここから南に三〇メートルくらい進み、左に折れ小径を歩くと稲荷山憩いの森の湧き水にたどり着く。湧き水の右崖に目を転じると豊楽園碑が立っている。稲荷山は、昭和七年に山主加藤氏の厚意で一般に開放され、かつて豊楽園とよばれ



稲荷山憩いの森の湧き水



る行楽地であった。湧き水をあとにして区内の憩いの森としては最も広い稲荷山を散策すると、森の東側の一角に弘化三年(一八四六)の題目塔など三基の石造物に行き当たると、ここはかつて三十番神のお堂があったところである。さらに森の中を進むと、土支田八幡宮が見えてくる。八幡宮の森は区内では珍しい杉樹群である。

土支田八幡宮は、地元の人にかつて「倭久保の天神様」とよばれ、主神に菅原道真命が祀られていた。戦後、現在の社名に改められ、そのとき相殿神であった誉田別命ぼんだわけのみことを主神とし、菅原道真命を相殿神とした。参道入口の井戸は南極井戸とよばれる。これは、当社の宮司鳥義武が白瀬中尉南極探検隊に事務長として加わり、南極から持ち帰った氷をこの井戸に入れたことから命名された。拜殿右手には、新田義貞の家臣篠塚伊賀守が戦勝祈願して植えたと伝えられる「伊賀の松」の切り株がある。また境内には文化七年(一一八〇)の馬頭観音、第六天などの石造物がある。

土支田八幡宮をあとにして、川に向かい坂を下ると、八坂小学校・中学校の間の桜並木や川にかかる八坂歩道橋付近の桜が美しい。小学校・中学校の手前を右に行くと文化一三年(一一八六)創業の山八水車に出る(非公開)。

次に白子川の右岸に目を転じてみよう。清水山憩いの森を出て、土支田二丁目目のバス停とは逆方向に歩き坂を下ると、別荘橋に至る。ここから少し歩くと、右手に八坂神社の鳥居が見える。八坂神社は天王社とよばれ午頭天王が祭神であったが、明治維新時に祭神を須佐之男命すさのおのみことに改め、社名を八坂神社と変更した。神社の石段下には、区内では有数の大きさを誇るカヤの木がある。正面本殿の右手前にある額殿には、天保五年(一八三四)のものなど古い絵馬が納められている。また、祭礼の日には区登録無形民俗文化財になっている中里囃子が演じられる。

八坂神社の右手には、中里富士と呼ばれる富士塚がある。高さ約一二メートル、径三〇メートルで、約四〇基の石造物を配する区内で最大級の富士塚である。富士講の講社の一つである丸吉講によって、江戸時代後期から明治初期に築造されたと推測される。現在では地元の中里富士講によって行事が実施されている。毎年八月朔日にはお山開きが行われ、お山の清掃や植木の刈り込みが行われる。なお、中里の富士塚は区指定文化財になっている。

八坂神社から西に七〇メートルほどの所に大泉第一小学校があり、校門右側に「尾張殿鷹場碑」がある。元は大泉学園町の東北端にあったもので、旧所在地

が尾張徳川家の鷹場であったことを伝えている。校地は、教学院の前身で文永五年(一一六八)開創と伝えられる永福寺の故地であるといわれる。また、観応三年(一一三二)の「武蔵野合戦」で新田義宗に従い足利尊氏に敗れた庄氏一族の屋敷跡は、校地一帯であったとも考えられる。東京外かく環状道路の建設に先立ち行われた発掘調査で、学校の東側からは周溝墓・集落跡が発見され、多量の貴重な遺物が出土した。

八坂神社に戻り、参道手前の小径を東に進み、不動堂を経て、さらに数百メートルほど行くと、八坂台児童公園の右に出る。園内の水の流れは湧き水を利用したもので、中里幼稚園崖下に見える池が水源である。



中里の富士塚

古文書の上手な保存の仕方② 封筒と保存箱

古文書にとって、ホコリ・チリや紫外線は劣化の原因となります。これを防ぐためには、古文書を封筒に入れて保管する必要があります。さらに、封筒詰めした古文書を収納箱に入れて保管すれば、封筒と箱という二重の保護膜によって守られることとなります。一枚ごとに封筒に入れれば整理もできます。

しかし、古文書を挿入する封筒には、少し注意して下さい。せっかく古文書を封筒に入れても密接している封筒が劣化しますと、古文書は表面から劣化してしまからです。封筒は劣化しにくい性質のものを使用するように心掛けて下さい。それでは、どんな封筒が劣化しにくく、古文書を保管するのに適当でしょうか？

まず紙の性質の面から考えます。酸性紙の封筒の場合、紙に含まれている酸性物質が紙の劣化を著しく促進します。この点、中性紙は劣化しにくい特徴をもち、古文書を保存するには中性紙封筒が最適といえます。また、紙は一般的に、質が良いものほど、寿命が長く、劣化は遅くなります。このため、古文書の保管にはなるべく質の高い紙で作られた封筒を使用すべきでしょう。

以上のことを考えますと、古文書の保管に理想的な封筒は上質の中性紙製のものといえます。公文書館や博物館では、古文書の保管に中性紙封筒を使用するの

が一般的になってきました。しかし、中性紙封筒はあまり市販されておらず、個人ではなかなか手に入りません。個人宅で古文書を保管する場合、このような限界はありますが、なるべく質の高い封筒を使うようにして下さい。

つぎに、古文書の保存箱についてお話します。古文書を保存箱に収納するとき、密封性を高くして下さい。保存箱の密封性が高ければ高いほど、古文書の劣化の要因となるホコリ・チリ・虫や紫外線などを防ぐことができます。保存箱の側面に、持ち運び用の穴があるものもありますが、穴からホコリや虫類が侵入することを考えると避けたほうがよいでしょう。

保存箱として良いのはキリの箱で、防虫効果もありますが、最近開発された中性紙製の保存箱も良いものです。先ほど、お話したように中性紙は劣化しにくく、中の古文書に悪影響を及ぼさないためです。しかし、個人ではやはり入手しにくいので、同じく腐食の心配がないポリ製の容器等(タッパー)で代用するのがよいでしょう。ダンボール箱は、強度を保つため鉄粉が紙に入っており、普通の紙より早く劣化します。このため、ダンボール箱を保存箱として使用する場合は、必ず古文書を中性紙封筒などに入れて、ダンボール箱と古文書が直に接しないようにする事が大切です。

新推進員の紹介

平成八年二月から、新たに文化財保護推進員に委嘱された蟻川葉子氏に抱負を書いていたいただきました。(石神井町、高野台、谷原、土支田の一部担当)

かつては田畑の広がる風景が多く見られた練馬区も、都市化の波をうけ大きく変わってきました。それでも車の往來の激しくなった旧街道筋や旧農道に、今も供花の絶えることのないお地藏様や庚申塔に出会う時、人々の信仰の息吹を感じ、心が安らぎます。

路傍の石造物のように私達に最も身近

国指定天然記念物

「練馬区白山神社の大ケヤキ」

白山神社(練馬四一)境内には拝殿前と階段下に二株の大ケヤキが成育しています。昭和一五年に拝殿前のケヤキは、国天然記念物に指定されましたが、

平成八年三月二九日、階段下のケヤキも追加指定となりました。また、この追加指定では、二株が成育する土地三七五.五平米が管理地域となり、成育環境を守っていく土地となりました。

区では腐朽対策や土壌改良を実施して、保護に努めています。皆さんも根本付近を踏み固めないなどの注意をすることで

な文化財が健在なのは、大切に守って下さる方々があることと心から頭が下がる思いです。伝統ある茅葺きの建造物等も所有する方々の一方ならぬご努力によって守られています。

今回、このような身近な文化財を巡回するお役目をさせていただくことになりました。巡回を通して地域の方々から、今に残る年中行事や信仰等について、教えていただきながら、少しでも文化財保護のお手伝いできればと思っております。祖先からの贈り物に関心を持ち大切にしていける心が、住む町への親しむ思いを深め、育むことにつながると思っております。どうぞよろしくお願い致します。

一株が追加指定されました

大切な文化財を守り、次の世代に伝えていく役割を担っていくよう、ご協力をお願い致します。

- ・追加指定木 幹周8m 樹高一9m

